福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年３月 15 日現在
（専技情報より抜粋）

◇麦類◇
11 月中～下旬播きの生育は、２月以降が高温で経過したため、平年より５～７日程度早いです。
草丈は平年より高く、主稈葉数はやや多く、茎数は平年並み～多いです。
出穂期は平年より早く、11 月中～下旬播きで３月下旬頃となる見込みです。
「ラー麦」「ミナミノカオリ」は、穂揃い期追肥の準備を行いましょう。葉色が淡いほ場や生育旺盛なほ場は、基準量より窒素１～２kg/10a 増量しましょう。尿素の葉面散布の増量はしません。
小麦とはだか麦は開花期、大麦は葯殻抽出期に赤かび病対策を実施しましょう。赤かび病に弱い品種、多発生が予想される場合は、７～10 日後に再度実施しましょう。

◇冬春ナス◇
２月の出荷ピーク後、樹勢が低下し細果や曲がり果等が発生したものの、その後の気温上昇に伴い回復傾向です。出荷量は、３月中旬頃より増加する見込みです。
病害虫については、灰色かび病、すすかび病、コナジラミ類が増加傾向です。
ハウス内気温が 30℃以上にならないように換気徹底しましょう。
芽の整理を行い、着果数の増え過ぎに注意しましょう。
気温、日射量、着果数の増加に応じて、かん水や施肥量を増やしましょう。
暖房機の稼働等により湿度上昇を抑え、病害の発生を防ぎましょう。

◇冬春トマト◇
土耕促成栽培の主要作型（９月中下旬定植）は、現在６～７段目の果実を収穫中です。出荷量は、気温の上昇に伴い、徐々に増加しています。
果実品質はおおむね良好です。草勢は着果負担により低下しているところがみられるものの、気温上昇に伴い回復傾向です。
灰色かび病、コナジラミ類が増加傾向です。
日射量の増加（気温の上昇）に伴い果頂褐変果等の不良果が発生しやすくなるため、かん水不足には注意しましょう。誘引・整枝等の適時作業、および株の状態に応じた温度や肥培管理等を徹底し、適正な草勢の維持に努めましょう。
病害虫対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇
12 月加温の「デラウエア」は果粒肥大期、「巨峰」では結実期です。
１月加温の「巨峰」「シャインマスカット」は新梢伸長期で、１月の低温により、生育進度は平年並み～やや遅いものの、生育はおおむね良好です。
展葉期以降は、ハウス内の温度が 30℃を超えないように、換気を行いましょう。

◇トルコギキョウ◇
１～２月の出荷量は、前年並で、５ヵ年平均比では 88％でした。販売単価が高く、販売金額は前年、５ヵ年平均比を上回りました。
春出荷（３～５月）作型の生育は、12 月以降の低温によって生育・開花にバラつきが見られます。本格的な出荷は３月下旬から開始し、出荷ピークは４月下旬から５月上旬になる見込みです。
品質向上、省力化のためほ場での芽摘みを徹底しましょう。
花の小輪化を防ぐため、開花期は夜温を 12℃以上で管理しましょう。
灰色かび病、斑点病は、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
和牛去勢の枝肉価格及び省令価格は、物価高による消費者の節約志向から前年比、過去５年平均ともに下回りました。３月の出回り量は増加見込みです。
豚枝肉価格は、１月下旬の厳しい寒波による発育の遅れや豚熱等の疾病の影響から供給量が減り、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。３月の全国的な出荷量も減少見込みです。
鶏卵価格は、鳥インフルエンザ発生による供給不足が継続しており、２月も過去最高価格を更新して前年比 199％、過去５年平均比 197％と大きく上回りました。生産量等の回復は夏以降となる見込みです。
幼畜の防寒対策は継続しましょう。
鳥インフルエンザ等家畜伝染病に対する衛生管理、野生鳥獣侵入防止対策を徹底しましょう。